（6）こころの教育、体験・学習機会の充実
～ハートが育ついろんな学び～

現状・課題

● 全国的に都市化や少子化が進む中、子どもが大勢で遊び、友人と語り合い、他人と協力し合うといった社会性やコミュニケーション力を身に付ける機会が減っており、地域社会において育むべき社会性などが育ちにくくなっています。また、地域や家庭、社会環境が変化するにつれて、多様な人間関係の中で育つ体験が少なくなっています。本市の現状を見ると、日頃から声かけなどの大人とのコミュニケーションがない子ども（小学生）が約２割、また異年齢の子どもと一緒に活動（遊び等）することがない割合が約２割いる状況です。（※）

● 本市はこれまで学校教育の中で、校内・校外における体験活動の推進及びその成果を最大にするための学習の場を数多く設けてきました。また、青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動の推進や青少年施設などを活用した自然体験、スポーツ・文化・科学の体験事業など、多種多様な体験活動の機会を提供しています。

● 幼児及び児童生徒に対して、児童文化の向上及び科学教育の振興を図ることを目的として建設された児童文化科学館は、プラネタリウムのある施設として毎年10万人前後が利用していました。一方で、最も古い建物が建築後約50年経過するなど老朽化等の問題が深刻化していました。

● 様々な他者と関わる「体験」から得られる「人と触れ合うことの楽しさ」や集団の一員として役割を果たすことの充実感。好奇心を刺激され、もっと学びたい思う感覚。中でも「お世話する・される」という関係から得られる「自分が必要とされている」という感覚は、子どもの主体性を生み、積極的に他者や社会と関わろうという意欲、すなわち社会性の基礎を育むことにつながります。このような子どもの自己肯定感を育み、成長を促すための効果的な取り組みを実施していくことが必要です。

方向性

● 子どもの社会性を育む重要な役割を担ってきた地域社会の代わりとなる場づくりや、子どもへの働きかけを行っていきます。

● 老朽化した児童文化科学館は令和３年12月に閉館し、令和４年４月に新科学館「スペースＬＡＢＯ」を東田地区に移転新設しました。移転後は「ものづくりのまち」に相応しい科学館として、北九州市の未来を担う人材を育成していくとともに、地元企業と連携を図りながら本市ならではの特色のある科学館として、さらなる賑わいを創出します。

● 子どもが活動の中心（主体）となって、自ら課題や問題に取り組み、それらを達成・克服していく機会を数多く用意するとともに、子どもを温かく支え見守る「応援者」を増やす取り組みを進めます。

※北九州市子ども・子育て支援に関する市民アンケート調査（平成30年度）

主な取り組み

①学校等におけるこころの教育の推進

教育活動全体を通じて、道徳教育の充実を図り、児童生徒の自尊感情や規範意識を向上させるとともに、豊かな体験活動を通じて、郷土への愛着を深め豊かな情操を養い、また、児童生徒が自他の心と体を大切にし、互いのよさを認め合える人権尊重の意識と実践力を養うような取り組みを進めます。

②体験活動等を通じた学びの機会の提供・充実

青少年が取り組むことができるさまざまな体験活動情報を、パンフレットやウェブサイト等により効果的に発信します。

また、子どもたちが地域の中で、自主的・主体的・継続的にさまざまな体験活動を行えるよう、活動をサポートする青年リーダーの育成を行います。

これらの取組みを通じて、より多くの青少年に体験活動の機会を提供することで青少年の健全育成を図ります。

■青少年施設〔こども若者成育課〕

北九州市には１か所の児童文化施設と７か所の青少年施設があり、それぞれの施設が特色を生かした体験活動を実施しています。平成17年度からもじ少年自然の家、平成19年度から玄海青年の家、平成24年度からかぐめよし少年自然の家、平成28年度からユースステーションに指定管理者制度を導入し、民間事業者等の独自の創意工夫と効果的、効率的な運営により市民サービスの向上を図っています。

○科学館（スペースＬＡＢＯ）

〔都市ブランド創造局科学館〕

北九州市科学館（スペースＬＡＢＯ）は「科学や技術への興味・関心を高め、北九州市の未来を担う人材を育むとともに、賑わいを創出する科学館」をテーマに、国内最大の竜巻発生装置や、西日本最大級・最新鋭のプラネタリウムを有する体験・体感型の科学館として令和４年４月に開館しました。

◎施設概要・展示品

施設概要	大規模商業施設の敷地内に立地し、常設展示室（1・2階）とプラネタリウム（3階）、屋上（4階）には50㎝反射望遠鏡を備えた天体観測室を設置しています。その他、未就学児向けのキッズスペースや、プラネタリウム上映の前後に、「月の石」など宇宙に関する展示を見ることができるスペースラウンジは無料で利用できます。
常設展示室 1階	「北九州市と科学」をテーマにした展示室です。高さ約10m(国内最大)の大型竜巻発生装置やミスタートルネードと呼ばれた本市出身の気象学者（藤田哲也博士）の顕彰展示があります。また、北九州市の情報が得られる体験型映像展示や「防災をカガクする」コーナーなどで楽しく学べます。
常設展示室 2階	「多様なミカタで科学の現象を観察！」をテーマに、科学の原点である「不思議と思う心」を育み、疑問に思う現象を科学的視点で考えることを目的とした９つの展示コーナーがあります。旧児童文化科学館で人気のあった風速15m/sの強い風を体験できる「ウィンドシミュレーター」や赤外線を避けながら黄金の宝をゲットする「ルパンウォーク」などは、さらに内容を充実させてリニューアル展示しています。
プラネタリウム	内径30メートルの西日本最大級ドームで最新鋭の投影機を設置しています。国内初のランウェイ付きステージがあり、座席はゆとりある250席で、車いすスペースや乳幼児連れでも安心して観覧できる「あんしんシート」もあります。

◆利用状況

年度	利用者数	
元	86,847人	旧児童文化科学館（R3.12.26 閉館）
2	27,602人	
3	46,677人	
4	472,397人	スペースＬＡＢＯ（R4.4.28 開館）
5	346,965人	

○科学館分館（スペースＬＡＢＯ ＡＮＮＥＸ）

北九州市科学館分館（スペースＬＡＢＯ ＡＮＮＥＸ）は旧北九州産業技術保存継承センター（令和3年3月休館）を改修し、サイエンスショーや科学教室など、科学及び技術に関する体験学習の場として、スペースＬＡＢＯの開館と同時に令和4年4月にリニューアルオープンしました。また、旧施設より引き継ぎ、一部施設の貸室対応も行っています。

◎施設概要・展示品

施設概要	スペースＬＡＢＯ（科学館本館）から徒歩約6分の場所に立地。有料駐車場（普通車50台）完備。「実験室」や「講座室」を備え、科学技術に関する様々な体験事業を実施しています。また、講演会やシンポジウム、会議などが実施可能なプレゼンテーションスタジオ（ステージ有、134席）や多目的スペース、金属・溶接加工などの実習場（工房）など、一部貸室対応をしています。

◆利用状況

年度	利用者数
4 ※R4.4.28 開館	37,666人
5	51,981人

○こども文化会館

こども文化会館は、児童文化の普及や創作活動を促進することによって、幼少年期の子どもの創造力や表現力を育み、人間性豊かな青少年を育成することとともに、子育てについての支援を行うことを目的とした施設です。

◎施設概要

施設概要
よく目立つ黄色の建物が目印で、到津市民センターと併設。童話を人形で表現したお話の庭や、素足で遊べるカーペット張りの館内など子どもたちが親しみやすい施設づくりとなっています。本格的な照明・音響設備を備えた児童劇場をはじめ、児童文化活動に携わっている市民や団体が自主的な活動をするための研修や会議の場、機材の提供をしています。

◆利用状況

年度	利用者数
元	32,889人
2	7,699人
3	7,763人
4	7,823人
5	12,633人

○玄海青年の家

主に青少年団体を対象とする宿泊施設です。寝食を共にする活動を通して、規律・協調・友愛・奉仕の精神と創造性を養い、次代を担う健全な青少年の育成を目指しています。

◎施設概要

施設概要
グリーンパークに隣接し、頓田貯水池湖畔に立地。キャンプ場を併設。講義、討議、スポーツ、ウォールクライミング、レクリエーションなどのほか、自然を生かしたオリエンテーリング、ウォークラリー、プロジェクトアドベンチャー、野外炊飯、カヌーなど野外活動ができます。平成19年4月より指定管理者制度導入。

◆利用状況

年度	団体数	利用者数
元	631団体	22,146人
2	477団体	10,811人
3	652団体	13,403人
4	732団体	20,115人
5	606団体	19,966人

○足立青少年の家

都市近郊の自然を活かし、健全な青少年育成を目的とした施設です。

◎施設概要

施設概要
青少年、団体の指導者および社会教育関係団体などが利用できます。グループ利用が原則ですが、家族利用も可能です。自然を利用したキャンプやオリエンテーリング、レクリエーションの場として活用できます。

◆利用状況

年度	団体数	利用者数
元	109団体	2,405人
2	51団体	904人
3	74団体	1,992人
4	114団体	2,122人
5	104団体	1,440人

○少年自然の家

子どもたちが、大自然の中の集団生活・野外活動などの体験を通して、規律、協同、友愛、奉仕の尊さを学び、心身ともにたくましい少年を育てることを目的とした施設です。

◎施設概要

施設概要
もじ・かぐめよしの２つの少年自然の家があり、それぞれ、特色のある恵まれた自然環境の中に設置されています。平成17年度より、もじ少年自然の家、平成24年度より、かぐめよし少年自然の家に指定管理者制度を導入しました。

◆利用状況

年度	もじ		かぐめよし	
	団体数	利用者数	団体数	利用者数
元	501団体	30,446人	375団体	8,173人
2	227団体	6,142人	288団体	5,881人
3	264団体	7,839人	294団体	5,838人
4	357団体	15,181人	308団体	6,977人
5	409団体	17,841人	316団体	6,905人

○青少年キャンプ場

次代を担う青少年が野外活動を通じて心身ともにたくましく鍛え、さらに健やかな精神を養い、明るく創造力豊かな人間性の育成を目指しています。

◆利用状況

年度	矢筈山（門司区）		足立（小倉北区）		堀越（小倉南区）	
	団体数	利用者数	団体数	利用者数	団体数	利用者数
元	106団体	2,824人	55団体	1,049人	252団体	2,801人
2	76団体	1,534人	238団体	1,611人	331団体	2,913人
3	74団体	1,455人	256団体	1,889人	306団体	2,784人
4	104団体	2,033人	293団体	2,998人	310団体	3,048人
5	106団体	2,074人	239団体	1,997人	417団体	4,227人
年度	しょうぶ谷（若松区）		帆柱（八幡東区）		金比羅（戸畑区）	
	団体数	利用者数	団体数	利用者数	団体数	利用者数
元	964団体	4,459人	74団体	639人	353団体	4,473人
2	1,100団体	3,363人	93団体	626人	444団体	2,683人
3	980団体	2,889人	44団体	264人	410団体	2,802人
4	891団体	2,835人	0団体	0人	614団体	4,084人
5	562団体	1,606人	0団体	0人	603団体	5,203人

※帆柱キャンプ場は令和３年８月より登山道不良のため休止中

○夜宮青少年センター

青少年に交流と研鑽（けんさん）の場を提供し、幅広い人間形成、学習活動の促進を図ることを目的とした非宿泊型の都市型青少年施設です。

◎施設概要

施設概要
施設の壁面に描かれているシンボルマークは「友愛と創造」。青少年グループ・サークルが自分たちのプログラムによって自主的な活動をしたり、集会や学習、討議、スポーツ、レクリエーションなどを行うなかで友情の輪を広げたり、豊かな創造性を身につけてもらうため施設や機材を提供しています。また、併せて指導・助言もしています。

◆利用状況

年度	利用者数
元	31,298人
2	10,744人
3	12,086人
4	17,732人
5	19,492人

○畑キャンプセンター

都市近郊の自然を活かし、健全な青少年育成を目的とした施設です。

◎施設概要

施設概要
バンガローやセンター棟などがあり、自然を利用した青少年グループのキャンプや、家族のレクリエーション、職場グループの研修の場として活用できます。

◆利用状況

年度	団体数	利用者数
元	87団体	2,662人
2	0団体	0人
3	5団体	68人
4	27団体	585人
5	49団体	1,706人

※令和２年度からイノシシ被害により
一部施設は休場

○ユースステーション

中・高校生をはじめとした若者が、学習や体験、スポーツ・文化活動、仲間との交流等を通じて、自己を発見し、社会性や自立性を身につけることを目的とした施設です。

◎施設概要

施設概要
平成25年４月に黒崎のコムシティにオープンした施設で、平成28年度より指定管理者制度を導入しました。若者が放課後や休日に気軽に立ち寄って集えるフリースペース、学習スペースがあります。 また、若者の多様なニーズに応えられるようスタジオ、多目的ホール、キッチン・ダイニング、工芸室、セミナールームを設置しています。 主催事業や利用者である若者による自主企画事業も実施しています。

◆利用状況

年度	利用者数
元	29,425人
2	15,309人
3	17,922人
4	40,927人
5	54,387人

■青少年ボランティアステーション推進事業

〔こども若者成育課〕

青少年ボランティアステーションにおいて、青少年の自己確立と「生きる力」をはぐくむため、ボランティア活動機会の創出や情報提供など、青少年がボランティア活動に参加しやすい仕組みづくりを行うとともに、リーダーの養成・登録を推進しています。

○**設置場所：**ウェルとばた３階

◆活動状況

年度	ボランティア体験者延べ人数
元	6,943人
2	2,329人
3	2,973人
4	3,852人
5	3,983人

■青少年施設ボランティアの養成〔こども若者成育課〕

青少年施設をボランティア活動の場として積極的に提供するとともに、ボランティアに関する研修等を行うことで、青少年の健全育成や社会参加等を支援しています。

◆施設ボランティア登録者数

年度	登録者数
元	288人
2	280人
3	217人
4	210人
5	392人

■チャレンジ 100 キロ〔こども若者成育課〕

小学４年生から中学３年生までを対象に、各青少年施設を宿泊しながら、北九州市内の主要な山の登山を含め、４泊５日で約 100 キロを歩き、心身ともにたくましい子どもの育成を図っています。

■南九州市・北九州市子ども交流事業

〔こども若者成育課〕

北九州市と南九州市の子どもが、互いの市を訪問し、“ものづくりのまち” と “農業のまち” という、それぞれの特徴を生かし、両市の豊かな自然や歴史、産業の学びを通じた交流を行うことで、両市の交流と青少年の健全育成を図ります。

■青少年育成団体の活動〔こども若者成育課〕

市内では、「子ども会」、「ボーイスカウト」、「ガールスカウト」、「海洋少年団」などの青少年育成団体が活動しており、それぞれの団体が、青少年健全育成のための各種行事を実施しています。

これらの青少年育成団体が定期的に集い、活性化に向けた取組みや、各種情報の共有等について検討するため、「青少年育成団体連絡会議」を設置しています。また、子ども会やボーイスカウト等の青少年育成団体等に所属する青年リーダーが「青少年育成シニアリーダー会議『ぽんて』」を組織し、若者の視点で各団体の現状を見つめ直し、ＰＲ活動や団体間の交流促進、指導技術の提供等へ向けた検討を行い、青少年健全育成を目指した取り組みを行っています。

■北九州市二十歳（はたち）の記念式典〔こども若者成育課〕

20歳に達した青年を祝い励ますとともに、大人としての自覚を促すため、市民・民間・行政が一体となって、二十歳の記念式典を実施しています。

◆参加状況

年	参加者数	対象者数
2	7,100人	9,576人
3	5,000人	9,847人
4	2,600人	9,572人
5	3,100人	9,122人
6	8,000人	9,101人

◆子どもの規範意識や自尊感情などの状況

① 学校の決まりを守っている

年度	小学６年生		中学３年生	
	北九州市	全　国	北九州市	全　国
28	89.3%	91.5%	94.1%	94.7%
29	89.8%	92.6%	95.1%	95.2%
30	88.3%	89.5%	95.0%	95.1%
元	91.1%	92.3%	96.2%	96.2%

※令和２年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施
※令和３年度以降も全国学力・学習状況調査は実施されたが、本質問については、調査されていない

② 自分にはよいところがある

年度	小学６年生		中学３年生	
	北九州市	全　国	北九州市	全　国
29	75.9%	77.9%	69.9%	70.7%
30	82.7%	84.0%	78.4%	78.8%
元	78.0%	81.2%	72.9%	74.1%
3	76.1%	76.9%	75.3%	76.2%
4	76.3%	79.3%	77.8%	78.5%
5	80.3%	83.5%	78.1%	80.0%

※令和２年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施

③ 将来の夢や目標を持っている

年度	小学６年生		中学３年生	
	北九州市	全　国	北九州市	全　国
29	86.5%	85.9%	70.6%	70.5%
30	86.5%	85.1%	70.8%	72.4%
元	85.7%	83.8%	71.0%	70.5%
3	80.5%	80.3%	67.6%	68.6%
4	80.0%	79.8%	67.3%	67.3%
5	81.1%	81.5%	66.8%	66.3%

※令和２年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施

④ 人の役に立つ人間になりたい

年度	小学６年生		中学３年生	
	北九州市	全　国	北九州市	全　国
29	91.1%	92.5%	91.5%	91.9%
30	94.7%	95.2%	94.4%	94.9%
元	94.4%	95.2%	94.5%	94.3%
3	95.4%	95.5%	95.3%	95.0%
4	95.1%	95.1%	94.9%	95.0%
5	95.7%	95.9%	94.4%	94.6%

資料：全国学力・学習状況調査
※令和２年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施